

平成 29 年度の学校評価

1 建学の精神

不言実行 あてになる人間

「入れる学校」から「入りたい学校」へ

- (1) 建学の精神「不言実行 あてになる人間」の具現化
- (2) 普通科と工業科を併せ持つ、多様な選択肢のある教育
- (3) 授業を大切にし、授業工夫を行うことで、「わかる授業」の展開と推進
- (4) 生徒が自信を持てるようなきめ細かい指導
- (5) 一貫コースを中心とした高大連携教育
- (6) 豊かな自然、恵まれた教育環境の中での自己実現
- (7) 校則を守り、公共心や公正さを育む教育

	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
渉外部	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 志願者を増やし、募集定員を確保する</li> <li>(2) 女子生徒数増をめざす</li> <li>(3) 中部大学との「高大一貫教育」により他校との差別化を図る</li> <li>(4) 普通科、機械電気システム科の各コースの特徴を具体的に発信する</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第1回学校見学会を部活動とその他の内容で2日間に分け内容の充実を図る等、参加者の満足度の向上を図る。</li> <li>(2) 女子向けの広報物や学校紹介を増やし、女子のニーズにあった進路情報等を発信する。</li> <li>(3) 「高大一貫教育」の実績で、近隣の他私立高校や公立高校との差別化を図る。</li> <li>(4) 普通科4コースは、進路状況の違いと、近隣の高校に勝る優位性、機械電気システム科では、他の工業高校にない資格や就職状況を、具体的にアピールする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地元重点地区を中心にきめ細やかな渉外活動で、学校見学会の参加者の増大をさせることができた。</li> <li>(2) 女子を意識した新規の学校案内コンパクト版を製作し、女子のニーズに合わせた進路状況などを伝えたことが、女子の志願者増大に繋がった。</li> <li>(3) 中部大学と本校の連携については、塾などを含めた保護者向けの多くの説明会で具体的に説明し、近隣の他私立校・公立高にないものとして多くの評価を得た。</li> <li>(4) 高大一貫教育の具体的発信と特進リーフレット製作などで成果があったので、進学コース・機械電気システム科の満足度と魅力の向上等を伝える広報物製作の準備を進めている。</li> </ol>
総務部	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成29年度沖縄修学旅行実施に向けての取り組み</li> <li>(2) 新しい形での新入生オリエンテーションの実施</li> <li>(3) PTA総会、大学見学会の充実</li> <li>(4) 実際の災害時に近づけた避難訓練の企画・実施</li> <li>(5) 情報メールの登録の掌握と情報メールの有効利用</li> <li>(6) クラス間でばらつきのない朝読書の実施</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 事前学習(ESDの視点を取り入れる)や自由行動計画の立て方など、該当学年と連携して取り組む。</li> <li>(2) 総合検診日に校内。翌日、中部大学での研修と、従来と変更して計画する。</li> <li>(3) PTA総会は、保護者の関心の高い進路に関する情報提供等を考え、参加者の増加を図る。また、大学見学会は、保護者のニーズにあった計画をする。</li> <li>(4) 授業時の避難訓練の実施や家庭へのメール配信など実際に近づけた訓練を実施する。</li> <li>(5) 保護者の望む情報の配信を考える。</li> <li>(6) マニュアルを配布し、共通認識を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ESDの視点から、歴史・文化・平和・自然学習として、総務部が資料を提携し、学年会でプリントを作成して事前学習を行った。</li> <li>(2) 校内では、普通科・機械電気システム科と別れ学習ガイダンスや集団行動。中部大学では、学校生活と大学進路等のガイダンスを効果的に実施することができた</li> <li>(3) PTA総会後の進路の話では、中部大学コモンズセンター長の伊藤守弘先生から「受験生を持つ保護者の子どもへの接し方」等の具体的お話を頂き、参加者増加に繋がった。</li> <li>(4) 授業時の避難訓練を実施し、非常勤教諭への連絡調整等、計画不備のところを確認ができた。</li> <li>(5) 配信内容について、特に問題もなく、未登録者への連絡漏れがないよう配慮できた。</li> <li>(6) マニュアル配布をし、監督をローテーションする等して、クラスにより指導の差を無くした。</li> </ol>
教務部	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「分かる授業」「履修の定着」「家庭学習の励行」への取り組みの推進</li> <li>(2) ICT教育の具体的な取り組み</li> <li>(3) 新校務システムへのスムーズな移行と効率的な利用の定着</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育課程・学年運営委員会の情報交換の場を積極的に活用し、生徒理解の場を設ける。</li> <li>(2) 一部固定の電子黒板の設置を行う等、施設の充実と、利用の促進を図る。</li> <li>(3) 情報部との連携を図り、新システム業務の円滑化を図るとともに、情報の有効利用を検討する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 公開授業、研究授業、初任者研究授業、ICT利用授業の見学、授業アンケート等を実施し授業力向上に努めた。</li> <li>(2) 4月に電子黒板利用研修会を実施するとともに電子黒板台数を購入追加するなどし、普段の授業での利用が大幅増加した。</li> <li>(3) 教務データの入力とともに進路指導部データへの反映に発展させている。不具合をチェックし早急に対応している。</li> </ol>

生徒指導部	<p>(1) 身だしなみ指導の徹底と生活規律の向上に努める</p> <p>(2) 登下校時のマナーの向上と交通安全に努める</p> <p>(3) SNS利用に関するモラルの向上</p> <p>(4) 携帯電話取り扱いの指導の徹底</p>	<p>(1) 問題行動発生時における初期対応の迅速化を図るため、関係者との連携を強化する。</p> <p>(2) 街頭指導並びに啓発活動により、交通事故防止、交通マナー向上に努める。</p> <p>(3) SNSによる問題、いじめによる問題行動を防ぐため、細やかな指導姿勢で臨む。</p> <p>(4) 携帯電話の校内での取り扱いについての規定に対する指導を徹底させる。</p>	<p>(1) 問題行動より友人間のトラブルに関する指導が増えている。指導するだけでなく支援を必要とする生徒への対応が課題である。</p> <p>(2) 登校時の巡回指導、下校時の街頭指導、自転車マナーについて通学地域・通学方法等別に指導を実施し、住民からの苦情に速やかに対応している。</p> <p>(3) SNSによる問題については、外部講師による生徒に対する講話や教員に対する実例講習を行い、防止対策をするとともに、速やかに対応し、トラブルの拡大や被害を防いでいる。</p> <p>(4) 携帯電話の校内での取り扱いについて、教員間の指導の共有化を行い、機会ある毎に生徒に伝え指導を徹底している。</p>
特活部	<p>(1) 全員参加型の生徒会行事を継承し、実施内容の質と魅力を高めるとともに地域へのアピールを行う</p> <p>(2) 部活動を物心両面で支援する</p> <p>(3) 教育相談を一層充実させ学年・分掌との連携を図る</p>	<p>(1) 早い段階から計画案を提示し、各クラス企画案の調整と、担任や機械電気システム科の協力で新しい企画も考える。学校見学会での生徒会企画を工夫する。</p> <p>(2) 部活動の壮行会や報告会を充実させる。また、部活動費の効率的な配分等を検討する。</p> <p>(3) 教員とカウンセラーとの教育懇談会を学期に1回は開催し、生徒理解に関する資質を高める。</p>	<p>(1) 文化祭では、各出典の企画紹介ポスターコンクールや模擬店をラウンジに集中するなど新しい企画を実施した。地域住民には、夏季休業中に生徒会で案内を配布し、外部来校者が190名ほどあった。学校見学会では、スタッフTシャツを作り生徒会学校ツアー等も企画実施した。</p> <p>(2) 大会成績報告書の提出を新たに導入したが、まだ徹底不足であった。多くの部活の活躍があり、壮行会も4回実施した。</p> <p>(3) 教育相談で教員が抱える問題解決のヒントを得るために、カウンセラーによる教育懇談会を行い教員の資質向上を図った。</p>
情報部	<p>(1) 新校務システムの効率的な運用と今後の計画</p> <p>(2) ICT機器を活用した授業展開の検討</p> <p>(3) ICT教育の具体的な取り組みに関わる無線ネットワークシステムの構築検討</p>	<p>(1) 他分掌と連携し、新校務システムの試行稼働から、本格稼働を目指す。</p> <p>(2) ICT機器を用いた授業の導入に向け、教務と連携して準備検討する。</p> <p>(3) ICT教育に対応できる無線ネットワークシステムの構築を検討する。ネットワークの多様化が今後さらに進むことを考え、本校情報セキュリティポリシーを再検討し、整備する。</p>	<p>(1) 新校務システムを稼働し、成績処理・入試処理等修正事項は随時対応している。ポータルサイトの操作が完了した。</p> <p>(2) 電子黒板の利用率が高くなり、急速4台購入した。また、ICT研修参加者の報告書を校務連絡掲載や、タブレット研修会等を実施し、教員の資質向上に努めた。</p> <p>(3) システム科教室に無線LANを設置し、ipadを46台導入、集中管理するシステムを構築した。セキュリティポリシー再検討は持ち越しとなった。</p>
進路指導部	<p>早い時期から計画的な進路指導を行い、自分の関心や適性を自覚させ、適切な進路を確保する。また、中部大学との連携をより強化する</p>	<p>(1) 模擬授業、説明会等で中部大学への関心を高め、入学者150名(学年42%)を実現させる。また、各科、各教科と連携し、入学後に対応できる十分な学力の定着を目指す。</p> <p>(2) 特進コース以外のコースからも受験を促進し、国公立大学合格10名を実現させる。</p> <p>(3) 各生徒の希望、適性にあった企業を選択できるよう指導し、就職一次合格率80%を実現する。また、入社後にやめない指導を強化する。</p> <p>(4) 過去のデータや具体的指導例など、どの担任も進路指導ができる資料等を充実させる。</p>	<p>(1) 中部大学への進学は、昨年を上回る142名が合格した。しかし、国公立大学については、アドバンスコースの1名と結果を出すことができず、サポート体制に課題が残った。</p> <p>(2) 就職指導については一次合格率92%で昨年を上回った。二次募集も多くあり、二次までで希望者全員が合格することができた。今後も企業と信頼関係を保ちたい。</p> <p>(3) 普通科や機械電気システム科、教科の連携を強め、学校全体の学習環境の整備と進学指導サポート体制を作っていきたい。</p>
普通科	<p>(1) 自学自習の確立をし、学習先頭集団となる生徒を育て、国公立大学への合格者を増加させる</p> <p>(2) 中部大学への進学希望者を増やし、大学を4年間で卒業できる学力をつける</p> <p>(3) コース毎に、早期に進路目標設定し、豊かな人間性を養いつつ、きめ細やかな進路指導に繋げる</p>	<p>(1) 普通科共通目標の英語力強化のために、英単語テストや1年生のマナトレ学習を通じて学習の大切さを理解させ、英語検定に向けた、学習意欲の向上に繋げる指導をする。</p> <p>(2) 学習意欲を高める方策として、自習室の開設、学習量調査の実施、成績優秀者の公表を行う。</p> <p>(3) 進路検討会を通して、中部大学の理解及び連携を行い、指導方法の充実を図る。</p>	<p>(1) 学習先頭集団の育成を図っているが、まだ不十分である。学年・教科と連携し、さらに濃い内容の指導が必要である。</p> <p>(2) 中部大学併設校推薦入学者数は増加している。大学入学後を考え、基礎学力だけでなく、思考力・判断力・表現力等の育成を図りたい。</p> <p>(3) 進路研究会を学年別の実施しているが、さらに、普通科全体での情報共有や指導方法の共有も図っていきたい。</p>

機械電気システム科	<p>(1) 資格・検定試験の合格者を増やすなど、生徒の専門的能力の向上を図る</p> <p>(2) 地域貢献を視野に入れた対外的な活動の拡充と実績の向上を図る</p> <p>(3) 機械電気システム科としての特徴づくりとその立案を図る</p> <p>(4) 専門課程を学ぶ意義を理解かせるとともに、進路意識の高揚を図る</p>	<p>(1) ジュニアマイスター顕彰取得率の増加や、社会的評価の高い試験の合格実績の向上を図る。</p> <p>(2) 各種競技会、地域のイベントへの積極的参加を教員や生徒に働きかける</p> <p>(3) 学校法人の行動計画、SPHの申請など、機械電気システム科の将来を視野に入れた計画を実施する。</p> <p>(4) 教員の資質向上のための研修を行い、授業の充実を図る。</p>	<p>(1) 1年次からのClassiを利用するなど基礎学力や学ぶ力の向上に取り組み、技術顕彰の該当者・資格検定の合格率を向上させることができた。</p> <p>(2) 生徒に呼びかけ、愛知県の事業や地域のイベントに教員の協力を得て参加し、本校の取組を地域に紹介することができた。</p> <p>(3) SPH採択に向けて、本校の取り組みを明確にし、大学、幸友会、一高会との連携の強化を図り、地域との協働についても取り組んでいる。今後、機械電気システム科だけでなく本校全体の取組として繋げていきたい。</p> <p>(4) 外部講師による、生徒への出前授業と教員への研修会を実施した。校内外で生徒の研究成果発表をさらに充実していった。</p>
1年生	<p>(1) 高校生としての自覚を持たせ、心身の成長を図る</p> <p>(2) 学習では、基礎学力の向上を図り、実現可能な目標を設定させ、目標達成のための努力をさせる</p> <p>(3) 将来の進路実現を見据え、課題活動等にも意欲的に取り組ませる</p>	<p>(1) 学校生活を通して、ルールやマナーを守る。モラルを高める指導をすることで、規律正しい生活習慣と高校生としての自覚を持たせる。</p> <p>(2) 普通科は、英検3級以上を目指し、マナトレと、英単語テスト等で英語力向上を図る。機械電気システム科は、基礎学力の定着を図るために、マナトレ、クラッシーの導入で自学力の向上を目指す。</p> <p>(3) 様々な教育活動を通して、成功体験を積むことで、自信を持たせ、素直で豊かな心を持った生徒の育成を図る指導・支援をする。</p>	<p>(1) 生徒指導では、携帯電話の取り扱い、身だしなみ指導に重点を置き、強化週間では、生徒指導部とともに学年団で、昇降口で挨拶と身だしなみ指導を行った。</p> <p>(2) 普通科では、英検合格者を昨年度より大幅に増加させることができた。また、機械電気システム科でも、各種検定で合格者を増加させるとともに、ジュニアマイスター獲得点数平均を上げることができた。</p> <p>(3) ボランティア・校内清掃活動等に積極的に参加する生徒が増加した。しかし、2学期以降、友人関係の維持、目標設定等の心の不安を抱え不登校気味の生徒が数名出た。スクールカウンセラーの協力を得ながら適切な指導助言を図りたい。</p>
2年生	<p>(1) 中堅学年としての自覚と責任感、行動力の育成を図る</p> <p>(2) 基礎学力向上のための努力を継続し、さらに、応用・発展させる</p> <p>(3) 課題活動を通して人格形成を図るとともに、集団への寄与への意識付けを行う。</p> <p>(4) 進路目標の明確化と、進路実現に向けた準備と取組を行う</p>	<p>(1) HRや集会での身だしなみやマナー等の指導を通して、生徒一人一人の学校への帰属意識を高め、修学旅行を見据えて、集団としての節度ある行動をとらせる。</p> <p>(2) 普通科は、英語検定の上位級獲得に向けた取組、機械電気システム科は、基礎学力向上プログラムの導入実施、ジュニアマイスター顕彰シルバークの取得を目指す。</p> <p>(3) 生徒会行事や部活動をはじめ様々なことに、中心的な役割を担い、協調性を持ち取り組むことで、社会的実践力を培う。</p> <p>(4) 生徒個々の進路目標を早期に立て、目標達成に向けた準備を早期に開始する。</p>	<p>(1) HRの内容として、マナー・集団生活等のテーマを多く取り上げた。どんな場面でも良識ある判断・行動がとれるようにしていきたい。</p> <p>(2) 普通科においては、英語検定受験に対する意欲の高まりを感じる。システム科についてはClassiの取組により基礎力の向上がみられた。進路達成までこの意識・意欲を繋げていきたい。</p> <p>(3) 球技大会や文化祭でクラスとしての盛り上がりが見られた。部活動も中堅として意欲的な活動がみられた。</p> <p>(4) 総合的な学習の時間やHRでは、進路の内容を多く取り上げた。進学においては、進路ビジョンが描けない生徒、就職においては、自分の適性や興味が不確定な生徒が多く、自分で考えさせ、将来を見据えた進路指導に努めた。</p>
3年生	<p>(1) 最上級生としての自覚や社会人を意識した行動をとれるように指導する</p> <p>(2) 主体的に進路決定をし、それに向けて努力させる</p> <p>(3) コース、系に沿ったきめ細かい指導と、積極的な資格取得を目指す</p>	<p>(1) 全校集会、学年集会、HRを通して、講話の中で生徒指導を繰り返し行い自覚させる。</p> <p>(2) 4月当初より、中部大学をはじめとした進路に関する情報を提供し、自主的な取り組みを促す。</p> <p>(3) 学年団、教科担当、家庭との連絡を密に図り、生徒の変化を見逃さないよう指導を行う。</p>	<p>(1) 学年集会・HRを利用し、規律や校則の指導を行った。また、朝読書の時間を利用し、生徒の変化を見逃さないように観察を行った。</p> <p>(2) 全体的に併設校推薦者が増加した。また、就職希望者は、全員内定が確定した。</p> <p>(3) 推薦で進路決定者や就職決定者が英検受験や、資格取得に挑戦するという前向きな姿勢が生まれた。</p>
総合評価	<p>建学の精神「不言実行 あてになる人間」の教育理念のもと、「入れる学校」から「入りたい学校」の具現化を目指し教育実践を行っている。</p> <p>学習指導では、「わかる授業」を目指し、ICT活用授業を奨励し、新たに多くの授業で取り入れることができた。さらに教員間の授業参観や、外部講師によるICT研修等、教員研修を行い教員の資質向上を図った。今後、ICT環境をさらに整え、タブレットを利用して授業を研究していきたい。また、英語検定合格を目指し、英語力強化にさらに取り組んでいきたい。機械電気システム科では、Classiを利用して基礎学力向上のための取組と、STEM的アプローチによる「自らの手で未来を創る人材」の育成を目指して授業展開の取組を始めた。</p> <p>生徒指導では、交通安全講話・自転車点検・携帯電話やインターネットに関する講習会を外部講師から行い、事故や事件・トラブルに巻き込まれないよう意識の向上を図っている。また、交通マナー違反等の苦情や、生徒間のSNSによるトラブル等は、分かった時点で担任・学年・生徒指導部の連携で敏速に対応している。来年度は、ネットパトロールを利用し、依り迅速に対応したい。教育相談では、問題を抱えている生徒に関する情報を共有し、スクールカウンセラーに相談を行いな</p>		

がら対応している。また、教員に対しては、事例研究等の現職研修を本年度も行った。

進路指導では、就職では、有効求人倍率が15倍となり最近では最も高い。事前指導の成果で一次合格者が92%と昨年の85%を超え、二次までに全員が合格することができた。今後とも多くの企業との信頼関係を継続していきたい。進学指導では、進学補習の整備や自習室の確保など、学習環境の充実に努め意欲の向上を図った。高大連携の強化に伴い、生徒向けの説明会、教員対象の懇談会など中部大学を理解する機会が増え、希望者は増加傾向にある。国公立大学については、合格者は昨年度に比べ減少し、サポート体制をより強化していく必要がある。

機械電気システム科では、課題研究の充実と、外部講師によるSTEM的アプローチの授業、タブレットを使用した授業を行うなど、SPHの認定を目指し、さまざまな取組を実施した。また、中部大学中高大連携フォーラムでの発表や日進市の多くの行事に参加し、本校の課題研究や防災に関する取り組みの紹介や発表を校外に向けて行った。本年度のジュニアマイスター顕彰取得者は、ゴールドが5名、シルバーが18名、特別表彰が2名であった。

部活動においては、少林寺拳法部が「全国高校総体」で、女子組演武の部で5位に入賞。「2017 少林寺拳法世界大会 in カルフォルニア, USA」で一般女子二段の部で優勝した。男子バスケットボール部は、「全国高校総体」「全国高校バスケットボール選手権」でともにベスト8に進出し優勝まであと一歩と健闘している。ゴルフ部でも「全国高校ゴルフ選手権大会」に女子団体・女子個人に出場すると共に、「全日本サンスポ女子アマゴルフ選手権」をはじめとする全国大会に女子個人で出場。さらに、男子個人で「全国高校ゴルフ選手権春季大会」への出場を果たした。また、男子ソフトボール部が「中日本総合男子ソフトボール選手権」で3年連続優勝を果たした。県大会では、女子バスケットボール部が、県高校総体・県高校新人で5位、サッカー部は県高校総体ベスト16、選手権ではベスト8に進出している。その他にも野球部、男女陸上部、女子ソフトボール部、男子バレーボール部、吹奏楽部が県大会に出場している。また、チアリーダー部も全国・東海大会に出場した。

ESD活動については、第2回ESD研究活動大賞発表会を実施した。校外では、ESD部が「愛知県ユネスコスクール交流会」「ESDコンソーシアム愛知交流会」で発表するとともに、「日進子ども連合会大会」でワークショップを行った。また、機械電気システム科が「にっしんわいわいフェスティバル」「にっしん市民まつり」等に参加し、課題研究・部活動で実施しているロケット・レゴ・マイコンカー・防災等の発表・交流を意欲的に行った。